

14. 有機穀物の栽培上の課題・問題点

有機穀物を栽培する上での課題・問題点は、全体では「労力が掛かる点」が 88 件（68.2%）、「収量や品質の不安定さ」が 79 件（61.2%）、「販路の確保が難しい点」が 60 件（46.5%）と続いている。

作物別では、全体の回答結果よりポイントが高かったのは、有機米では「販路の確保が難しい点」、有機麦類では「期待したほどの販売価格水準になっていない点」、有機大豆では「期待したほどの販売価格水準になっていない点」、その他有機豆類では「人手が足りない点」であった。

<有機穀物の栽培上の課題・問題点>

	全体		JAS認定作物							
			有機米		有機麦類		有機大豆		その他有機豆類	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
労力が掛かる点	88	68.2	80	67.8	9	64.3	17	73.9	9	69.2
収量や品質の不安定さ	79	61.2	71	60.2	7	50.0	14	60.9	8	61.5
販路の確保が難しい点	60	46.5	58	49.2	8	57.1	8	34.8	5	38.5
期待したほどの販売価格水準になっていない点	54	41.9	50	42.4	8	57.1	11	47.8	4	30.8
資材コストが高い点	47	36.4	44	37.3	4	28.6	7	30.4	5	38.5
人手が足りない点	43	33.3	38	32.2	6	42.9	8	34.8	6	46.2
その他	18	14.0	16	13.6	2	14.3	4	17.4	2	15.4
無回答	6		6		1		3		0	
回答者数	129	100.0	118	100.0	14	100.0	23	100.0	13	100.0

※複数回答

その他の課題・問題点としては、「消費者への認知度向上」や「有機に適した補償制度」、「有機米専用のライスセンターが無い」、「書類作成業務が大変」などの回答があった。

<有機穀物の栽培上の課題・問題点（その他）>

その他内容
慣行農家がドリップ等の抑制をすべき。有機農家が緩衝地帯を設けるのは理不尽。
秋ウンカ対策。
地球環境にやさしい米づくりも年齢が増すとともにしんどい。
除草対策に尽きる。
安全性・品質・良食味・栄養価・抗酸化力の全てに応えるには、3割減収が限度。最低3割以上の転作率が望まれる。
気候変動による適期作業が年々難しくなっている。
除草のタイミングがシビアなこと。
有機農産物に関する消費者の認知度が低い。
生産者が正当な評価を得ていないこと。
集落、地域、圃場隣接者から理解を得られるかどうか。
除草作業。
消費者に有機米を理解してもらいたい。
有機に適した農業共済のような補償制度がない。補償制度がないため、慣行からの移行がしづらい。
申請書類の作成が大変。
有機米のライスセンターが無く、稲刈りが適期にできず色選器を有機の補助金で導入してもまだ、稲刈りもやってもえないのが現状。

15. 有機穀物の今後（５年後）の栽培面積の方向性

（１）有機米

有機米の今後（５年後）の栽培面積の方向性をみると、全体では「拡大」が 37 件（30.3%）、「現状維持」が 73 件（59.8%）、「縮小」が 12 件（9.8%）という結果であった。

「拡大」の回答は、小規模は 19.4%に対し大規模は 45.8%、新規は 68.8%に対し、熟練者は 25%という結果であった。大規模な新規就農者は拡大傾向が高い結果となった。

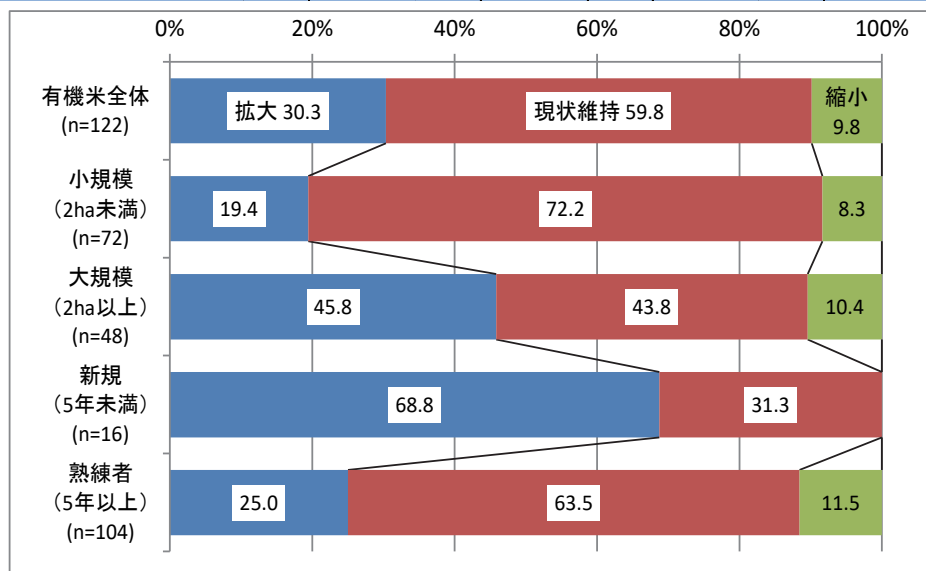
拡大する理由として、「需要が多いため」、「需要に応えきれていないため」、「高齢化により農地がたくさん空いている」、「除草さえできれば売り先はあるので増やしたい」との回答があった。

現状維持する理由として、「拡大しても売上が上がらない」、「販路が増えない」といった販売面の課題や、「近年秋ウンカによる被害が増大している」、「面積が増えると除草が追い付かない」、「労力がかかるため、一人で 3ha が限界」といった回答があった。

縮小する理由として、「高齢のため」、「思うように収量が上がらず、販路も限られるため」、「除草が大変で収量も上がらないため」との回答があった。

<有機米の今後（５年後）の栽培面積の方向性>

	有機米全体		栽培面積別				栽培経験年数別			
			小規模 (2ha未満)		大規模 (2ha以上)		新規 (5年未満)		熟練者 (5年以上)	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
拡大	37	30.3	14	19.4	22	45.8	11	68.8	26	25.0
現状維持	73	59.8	52	72.2	21	43.8	5	31.3	66	63.5
縮小	12	9.8	6	8.3	5	10.4	0	0.0	12	11.5
無回答	2		2		0		0		2	
回答者数	122	100.0	72	100.0	48	100.0	16	100.0	104	100.0



（２）有機麦類

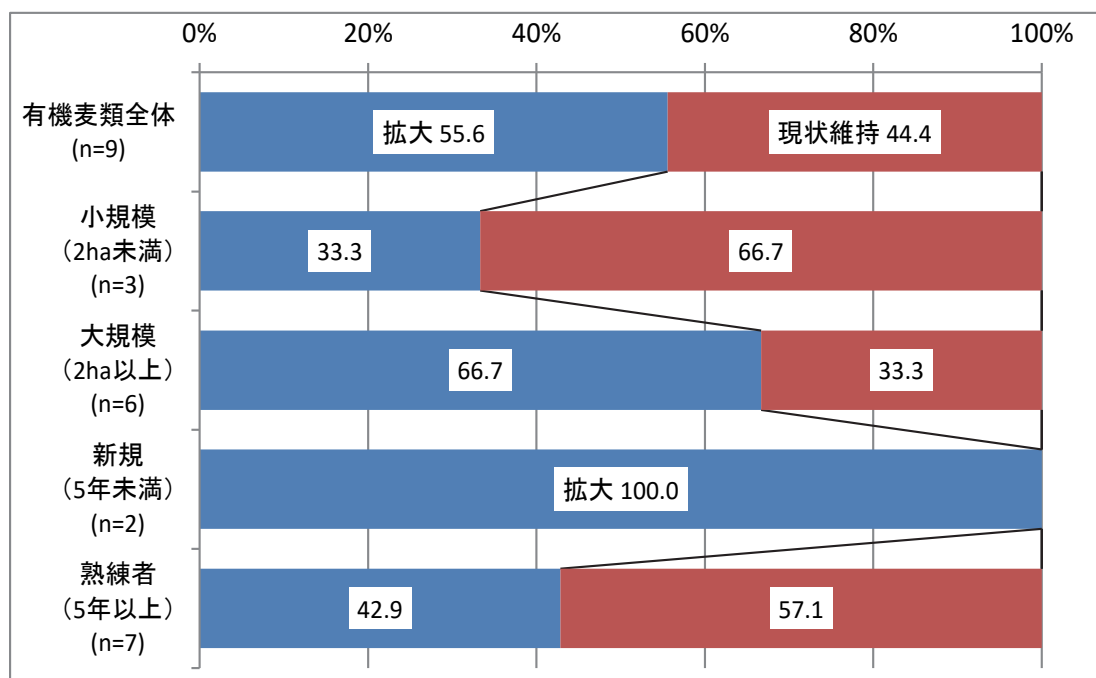
有機麦の今後（５年後）の栽培面積の方向性をみると、全体では「拡大」が５件（５５．６％）、「現状維持」が４件（４４．４％）、「縮小」の回答はなかった。

拡大する理由として、「出荷先からの増産希望のため」、「需要が多いため」との回答があった。

現状維持する理由として、「多収技術を目指しているため」、「現在の面積が体力、販路のバランスが取れている」といった回答があった。

＜有機麦類の今後（５年後）の栽培面積の方向性＞

	有機麦類全体		栽培面積別				栽培経験年数別			
			小規模 (2ha未満)		大規模 (2ha以上)		新規 (5年未満)		熟練者 (5年以上)	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
拡大	5	55.6	1	33.3	4	66.7	2	100.0	3	42.9
現状維持	4	44.4	2	66.7	2	33.3	0	0.0	4	57.1
縮小	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	6		0		0		0		0	
回答者数	9	100.0	3	100.0	6	100.0	2	100.0	7	100.0



（３） 有機大豆

有機大豆の今後（５年後）の栽培面積の方向性をみると、全体では「拡大」が８件（４２．１％）、「現状維持」が８件（４２．１％）、「縮小」が３件（１５．８％）という結果であった。

拡大する理由として、「高齢化による離農のため、農地耕作の依頼が多い」、「需要が多いため」、「取引先より増量希望」、「技術が安定してきているため」との回答があった。

現状維持する理由として、「設備投資・人材育成なしでは規模拡大は無理だが、資金・人材とも工面できない」、「労力、収量・品質の不安定さ、資材コスト、人材不足、販売価格に問題があるため」といった回答があった。

縮小する理由として、「年齢による体力低下」、「収穫機を購入したいが高過ぎる」、「人手不足。価格が安い」との回答があった。

<有機大豆の今後（５年後）の栽培面積の方向性>

	有機大豆全体		栽培面積別				栽培経験年数別			
			小規模 (2ha未満)		大規模 (2ha以上)		新規 (5年未満)		熟練者 (5年以上)	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
拡大	8	42.1	2	25.0	6	54.5	2	66.7	6	37.5
現状維持	8	42.1	4	50.0	4	36.4	1	33.3	7	43.8
縮小	3	15.8	2	25.0	1	9.1	0	0.0	3	18.8
無回答	7		0		0		0		1	
回答者数	19	100.0	8	100.0	11	100.0	3	100.0	16	100.0

